

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター ぞうさんの足音			
○保護者評価実施期間	令和7年9月1日 ~			令和7年9月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	7
○従業者評価実施期間	令和7年10月1日 ~			令和7年10月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数)	2
○訪問先施設評価実施期間	令和7年10月1日 ~			令和7年10月15日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	5	(回答数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11月30日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ABAプログラムに基づくスマールステップでの支援と、医療機関連携の強み 行動分析に基づく明確な目標設定と段階的な支援を実施し、園での適応を促す専門性の高いサポートが可能。 病院併設の利点を生かし、医師への相談や専門的助言を受けながら支援計画を調整でき、保育園・幼稚園との連携も精度が高い。		<p>①園と保護者向けに、ABAのねらいやステップを分かりやすく可視化した「支援シート」や「行動改善の流れ図」を作成。</p> <p>②訪問後のフィードバックシートを定型化し、園職員が日常活動の中で活用できるように工夫する。医師助言をふまえた「園での対応例」や「家庭での声掛け方法」を共通フォーマットで伝えることで、一貫した支援を実施。</p> <p>③必要時には園会議やケース会議にも情報を持ち寄り、三者で子どもの成長支援を共有する機会を増やす。</p>

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	さらに充実を図るための取組等
1	保育所等訪問支援の依頼が増加している一方、訪問を担当できる職員数が限られており、ニーズに即した訪問調整が難しい状況が生じている。  子どもへの支援内容は専門性を要するため、誰でも担当できるわけではなく、結果として担当者への負担が集中しやすい。	<p>① 職員間での情報共有の強化 訪問支援の進捗や園での課題を定期的に共有し、訪問担当者以外の職員も支援状況を把握できる体制づくりを進める必要がある。</p> <p>② 訪問スケジュールの効率化 園側との調整を丁寧に行い、移動時間や訪問間隔を最適化することで、限られた時間でより多くの訪問ができるよう工夫する時間が確保できない。</p>	<p>①訪問支援を担当できる職員の育成 ABAの基本研修や外部研修の受講機会を増やし、訪問担当できる職員を計画的に育成する。 経験者によるOJT（同行支援・ロールプレイ等）を導入し、実践的なスキル習得を促す。</p> <p>②訪問支援の役割分担の明確化 訪問専任・訪問兼任など、職員の役割を明確にし、負担が特定の職員に集中しないよう調整する。 訪問準備（資料作成・事前確認）と実際の訪問を分けて、業務効率を高める体制をつくる。</p> <p>③ニーズの見える化と優先順位の設定 訪問依頼内容を整理し、緊急性・必要性の高いケースを優先する明確な基準を作成。 園側と相談しながら訪問方法の工夫（短時間訪問、オンライン助言など）を検討する。</p>